c　指導過程

段階	学習内容・活動	時間	指導上の留意点
導入	1. 前時の学習内容を想起し，本時のめあてをつかむ。 (1) 本時のめあてを確かめる ［くじらぐもと子どもたちは，どんなよびかけをはじめたのでしょう。］	5	・学習計画表を提示し，前時までの学習内容を思い出させ本時の学習につなげる。 ・感想の中に見られる疑問や詳しく学習したい内容と本時のめあてを関連づけさせる。 ・さし絵の拡大図を提示し，くじら雲と子どもたちの位置関係をおさえさせる。
展開	2. くじら雲と子どもたちは，どんな会話をしたのかを読み取る。 (1) 本文を読む。 (2) 会話の部分をさがす。 (3) ワークシートに会話文を書き抜き，だれの言葉か確かめる。	25	
	3. 「」の読み方を工夫し，場面の様子を想像して話し合う (1) 長く伸ばす言い方になっているわけを考える。 ・「おうい。」 ・「ここへおいでよう。」 (2) ワークシートに気持ちを書きこむ。 (3) 「」に音読記号をつける 4. 音読記号を生かした音読をする。	15	・音読をして，伸ばす言い方になっていることを確認させ音読記号を意識させる。 ・距離感を感じとらせ，間を考えて読ませる。 ・"大きなこえで""「よしきた」""はりきりました"から子どもたちの気持ちを想像させる。
終末	5. 学習のし方を振り返る。		・自己チェックにより，音読のし方と学習への参加態度を振り返らせ，賞賛や励ましを与えることで，次時への意欲を喚起させる。

(2) 検証と考察

① 検証の観点

ア　学習に入る前の音読のし方と，検証後の音読のし方とを録音し，変容をみる。

イ　同一問題で，事前・事後・把持テストを実施し，仮説の有効性をみる。

ウ　音読に関して，検証前と検証後の意識調査をすることにより，変容をみる。

エ　自己チェックカードにより，情意面の変容をみる。

＜ワークシートの例＞

② 授業の考察

ア　単元全体の目標分析をし，音読のねらいを明確にした授業を構成できたので，正しい読み取りと読み深めができた。

イ　「くじら雲は，天井にはったほうがいいよ。」という意見も出され，位置関係をとらえ，距離感を感じとっていたので，「おうい。」と伸ばして言う言い方にも気付くことができた。

ウ　登場人物になりきって気持ちを書き込みくじら雲と子どもたちが親しくなっていく様子をとらえて書くことができた。

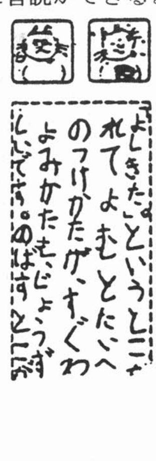
エ　音読記号については，記号の併用（…と→）も見られ，予想した以上の意識の高まりが見られた。

オ　音読記号を意識しながらの音読は，初めは「難しい」という声も聞かれたが，進めていくうちに工夫した音読ができるようになってきた。

③ 授業の記録

。自己チェックカード

。ワークシート



＜自己チェックカードの例＞